

平成21年10月学術講習会

(社) 日本鍼灸師会
(社) 東京都鍼灸師会

主催

厚生労働省後援 通算 694 回

(2009.10.25)

演題および講師

基礎医学編

I. 「腰部脊柱の臨床解剖」

— 脊柱周囲の神経走行についての形態学的検討 —

文京学院大学 解剖学 准教授 樋口 桂

鍼灸治療編

II. 「五十肩のトリガーポイント鍼療法②」

関西医療大学 教授 黒岩 共一

「腰部脊柱の臨床解剖」

— 脊柱周囲の神経走行についての形態学的検討 —

樋口 桂

腰部脊柱周囲の末梢神経の走行や、脊柱への神経分布についての解剖学的知識は、腰痛の病態理解や効果的な治療などを考える上で未だに要求されている。そこで、腰部脊柱の局所解剖所見を提示しながら脊柱周囲の末梢神経の走行様式を分類し、その特徴について臨床解剖学的検討を試みたい。

脊柱の腹側を構成するおもな要素としては、椎体・椎間板・縦靭帯がある。これらには柱のように強固にからだを支える働きがある反面、脊柱運動に際しては

柔軟性を要求されるという矛盾した構造である。そのような腰部脊柱の前～側面には、脊髄神経だけでなく、交感神経幹と脊髄神経との交通枝が密着しており、これらの神経要素が脊柱に多数の分枝を送っていた。また、椎弓をかじり取って、脊柱管内を解放すると、椎体・椎間板後面には硬膜枝（椎骨洞神経；Sinuvertebral nerve）が細枝を送っていた。この硬膜枝を精査すると、交感神経交通枝の基部から起始していることがわかった。

さらに、脊柱前面に近接する神経としては、交感神経幹から起こる内臓神経があげられるが、この内臓神経を精査してみると、脊柱前面（前縦靭帯）表面に細かく分枝していることが認められた。

一方、脊柱の背側を構成する要素としては、椎間関節・黄色靭帯がある。椎間関節には脊髄神経後枝の内側枝が分布していた。この分布の特徴としては、一つの椎間関節がそれをはさむ上下の分節に由来する後枝によって二重支配されることである。また、黄色靭帯には分節的に脊髄神経根部から直接枝が進入していた。

上記のようなルートを通して腰部脊柱に感覚神経線維が分布していると仮定すると、脊柱の神経支配には、1) 交感神経系を経由するもの、2) 脊髄神経からの直接枝、という異なる2系統の共存が予想された。とくに脊柱の感覚刺激が交感神経系を経由する場合、分節性が不明確な腰痛に関係すると考えられる。また、このような交感神経系の関与は内臓疾患と腰痛の関連性を考える上でさまざまな示唆を与えてくれるものと考えられる。



文京学院大学 解剖学 准教授 樋口 桂

「五十肩のトリガーポイント鍼療法②」

黒岩 共一

この間トリガーポイントがマスコミで取り上げられ、マスコミの常で「適当に」紹介された。現在、トリガーポイントと書かれたタグをツボ、圧痛点の上に貼り付けたトリガーポイント治療が増殖中である。唯、実体を伴わない治療点は科学の俎上では透明化し霧消する。今回も俎上で元気に跳ねるトリガーポイント治療技術をアーリーアダプターとして活躍される会員諸氏に報告し、任を果たしたい。

実は前回同じタイトルでお話させて戴いたのだが、肩関節痛のトリガーポイント治療に関してこの1年で割合大きな技術的前進があり、再演の運びとなった。先ず前回講演時点では肩関節痛の発痛構造に関して見落としがあった。触察技術に関して、物理学的誤解があり、指ではトリガーポイントに触れるのに鍼は当てられない障壁が存在した。今回、肩関節痛の新しい発痛構造、「触れない構造の機械的刺激」を可能にするトリガーポイント・マッサージの新技法とその視点について紹介し、肩関節痛に対して革新されたトリガーポイント治療技術を供覧する。



関西医療大学 教授 黒岩 共一